

## 第 38 回家族会

H30 年 5 月 12 日(土)に第 38 回目の家族会を開催いたしました。参加者は、患者さん、ご家族 14 名、スタッフ 8 名、計 22 名でした。

今回のテーマは「病床からの生還—社会復帰を果たして—」と題しまして、入院経験を経て、社会復帰された方々が入院中に大変だったこと、患者さんの立場になって感じたこと、社会復帰を果たすために取り組んだことなど、入院生活で感じた想いを私が代読させていただきました。

医療者の立場と患者さんの立場の両方を経験した方の、入院中眠れないこと、ルートに繋がれて思うように動けない中で、ゴミ箱が手の届かないところにあり、もどかしさを覚えたこと、抑制された時の虚しい気持ち、患者は弱い立場にあるという身を以て知った経験など、入院中に感じた想いの数々は、我々にとっても多くの示唆に富む内容でした。

今回の家族会には若いリハスタッフが参加してくれたのですが、リハのスタッフは若い世代が多く、当然自分が患者さんとなる経験をした方は少ないのが現状です。参加したスタッフは、「患者さんにしかわからない不安が多くあることを知り、その中で自分がどのように寄り添えばいいかを知ることができました」と感想を述べてくれました。医療者として、患者さんのそばに立つ上では、このような生の声を聴き、自らの関わりを振り返るとともに、今後の関わりや振る舞いに活かしていただければと思います。



最後に、頂いた言葉の中で非常に心に残っている言葉があります。それは、ご家族に対しての「ありがとう」という感謝の言葉です。病気になったときもそうかもしれませんが、人生において何か大きなイベントが起こった時に、自分の身近な存在の方の大切さを改めて知るのでしょう。大切な方への感謝の想いを聴きながら、自分の大切な人を思い浮かべることができた家族会でした。そしてなるべくなら、そういう経験なしに大切な人に、日々「ありがとう」と言える素直な気持ちを持ち続けたいと思う今日この頃であります。

原田智史